

## 令和5年度（大磯高校）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	教育公務員としての職責を自覚し、法令遵守意識の徹底を図ることで、公務外非行を未然に防止する。	昨年度に引き続き、事故・不祥事防止研修を毎月実施し、職員が輪番で提案者になるなど意識の向上に努めた。不祥事を他人事ではなく、自分自身の門団として捉えようという意識が高まった。
職場のハラスメントの防止	人権に配慮し、尊重した対応を身につける。	ストレスを抱える職員と管理職との面談を密にし、情報の共有に努め、職員間の融和を図った。休職していた職員が職場リハビリをへて復帰できるなど、一定の成果を上げることができた。
わいせつ・セクハラ行為及び体罰・不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、冷静に真摯な態度で指導にあたる。	スクールカウンセラーや教育相談コーディネーター、担任等との連絡と情報共有を迅速にかつ、綿密に行い、必要に応じて専門機関とも連携した。生徒からの悩みごとの相談にも迅速に対応することができた。
成績処理や進路関係業務における個人情報に係る事故防止	成績処理等に係わる事故防止のための体制作りを行う。 進路関係の正確かつ適正な事務処理を徹底する。	推薦入試に関する業務については、丁寧な点検作業を徹底し、公正で適切な事務処理を行うことができた。主体的に学習に取り組む態度の評価について研修を行うとともに、各教科において透明性の高い評価・評定が行なわれるよう研究を進めた。
入学者選抜に係る事故防止	県民に信頼される入学者選抜業務の体制の確立。	入学者選抜業務の遂行にあたっては、複数の職員による丁寧な作業を心がけ、ミスのない業務を実施することができた。
危機管理時を含む業務執行体制の確保	危機の状況に応じて適切な業務を執行する。 円滑な学校運営のため、合理的かつ前向きな業務執行体制を確立させる。	危機管理マニュアルに基づいて緊急時における参集体制を職員間で確認することができた。大磯町・平塚市の防災担当課と協議を行い、津波や大雨などの災害発生時の対応に係る問題点を改善した。
財務事務等の適正執行	適正な私費の徴収・執行を行う。	部活動費の会計処理について処理方法を改め、管理職が物品の購入等について管理を徹底できるようにするなどの改善を図り、適正な会計処理を行うことができた。

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

職員間のコミュニケーションが改善・向上し、また、管理職への報告・連絡・相談も円滑になっており、様々な情報の共有が進んだことが実感できるが、一部の経験年数の浅い教員が課題を抱え込むことが無いとは言えない。引き続き面談を密にするなどして、風通しの良い職場作りに努めていきたい。

入学者選抜については調査書の読み取りに不具合があり、神経を使う場面があったが、職員の協働により無事に終了することができた。今後とも事故のない業務を心がけていきたい。